

関西学生サッカーリーグ

前期結果 (第9節終了時点)

	月日		得点	対戦相手
第1節	4月7日	びわこ成蹊スポーツ大	0 0-0 0-3	3 大阪体育大
第2節	4月13日	びわこ成蹊スポーツ大	1 0-1 1-0	1 立命館大
得点者: 松田力				
第3節	4月21日	びわこ成蹊スポーツ大	5 1-1 4-2	3 関西学院大
得点者: 加藤大樹、久保賢悟(3)、西村勇太				
第4節	4月28日	びわこ成蹊スポーツ大	5 1-0 4-0	0 神戸国際大
得点者: 松田陸、加藤大樹、松田力(3)				
第5節	5月3日	びわこ成蹊スポーツ大	3 1-1 2-0	1 関西国際大
得点者: 矢澤貴文、松田力(2)				
第6節	5月6日	びわこ成蹊スポーツ大	5 3-0 2-0	0 大阪産業大
得点者: 松田陸、田路大樹、久保賢悟、OWNゴール(2)				
第7節	5月11日	びわこ成蹊スポーツ大	4 1-1 3-1	2 京都産業大
得点者: 松田陸、松田力(2)、西村勇太				
第8節	6月9日	びわこ成蹊スポーツ大	1 1-1 0-3	4 阪南大
得点者: 久保賢悟				
第9節	6月15日	びわこ成蹊スポーツ大	3 1-0 2-2	2 桃山学院大
得点者: 加藤大樹(2)、久保賢悟				

サッカー部が関西学生リーグで頑張っている。前期の第9節を終了して6勝1分け2敗の勝ち点19。首位の大体大(8勝1敗、勝ち点24)とは勝ち点で5差、2位の阪南大(7勝2敗、同21)を同2差で追う展開だ。

第1節の大体大戦では後半に守りが崩れ、3点を奪われて敗れた。第2節は、試合終了直前にFW松田力の同点ゴールで立命大と引き分け。土壇場でのエースの決定力で息を吹き返し、続く関学大には持ち前の攻撃サッカーが功を奏して5-3で競り勝った。第4節では松田力のハットトリックの活躍などで神戸国、

ゴールに迫る松田力

スローインする松田陸

3位をキープ

好調のチームを支えるのは、昨年の関西学生リーグ得点王でもある松田力と右サイドバック松田陸の双子の兄弟。ともに競技スポーツ学科コーチングコース4年で、そろって「JFA・Jリーグ特別指定選手」に承認された。弟の松田力は、大分トリニータに登録され、5月22日のヤマザキナビスコカップ予選リーグ、サガン鳥栖戦に先発出場。アシストを挙げる奮闘でチームの3-2の勝利に貢献した。松田力は「プロの一員として、ほかの大学生とは違うところを見せたい。何をやるにもトリニータの一員として行動している」と話し「正直に言ってもまだ3位を維持する実力はないと思う。もっと個の力を鍛えようと躍への課題を挙げた。

実際に圧勝、さらに関西国際大、大産大、京産大を連破。阪南大には1-4と完敗したが、桃山大には3-2で競り勝った。

もに、プロで学んだことを、みんなに伝えていきたい」と意欲満々。FC東京に登録された松田陸はゲームキープテンを務める。「勝っているとはいいが、それをどう継続していくかが大事。ひたむきにやることでいい結果が出る。もっとチームを引っ張って関西学生リーグで優勝したい」と意気込んでいる。

リーグ戦再開は9月。格下相手との戦いでは爆発力を発揮するが、上位の大体大と阪南大戦では力の差を見せつけられたのも事実。望月監督は「全日本大学選手権出場資格の3位以内をキープするという中間目標は達成できた。勝負強くなったことを実感している」と言いながらも「サッカーの質を上げるために秋までにもう一度、体づくりをして持久力、筋力を10%アップしたい」と、さらなる飛躍への課題を挙げた。

好調を維持するびわスポ大イレブン

2013年度 第91回 関西学生サッカーリーグ (前期) 勝敗表

第9節 終了時点

順位		阪南大	関西大	桃山大	関学大	びわスポ大	大院大	立命大	大体大	京産大	大産大	神国大	関国大	勝	負	分	得点	失点	得失点差	勝点
2	阪南大				● 2-4	○ 4-1	○ 3-2	○ 1-0	○ 3-1	○ 2-0	● 2-3	○ 7-0	○ 8-0	7	2	0	32	11	21	21
5	関西大			● 1-3	△ 2-2		● 1-3	○ 1-0	● 0-2	○ 3-1	○ 4-1	○ 1-0	○ 3-0	5	3	1	16	12	4	16
7	桃山大		○ 3-1			● 2-3	○ 1-0	△ 2-2	● 0-3	● 1-2	△ 1-1	○ 2-0	△ 2-2	3	3	3	14	14	0	12
4	関学大	○ 4-2		△ 2-2		● 3-5	○ 1-0		● 1-2	○ 5-0	△ 1-1	○ 7-0	○ 3-1	5	2	2	27	13	14	17
3	びわスポ大	● 1-4		○ 3-2	○ 5-3			△ 1-1	● 0-3	○ 4-2	○ 5-0	○ 5-0	○ 3-1	6	2	1	27	16	11	19
8	大院大	● 2-3	○ 3-1	○ 0-1	● 0-1			△ 2-2	● 1-2		● 3-4	○ 2-0	△ 2-2	2	5	2	15	16	-1	8
10	立命大	○ 0-1	● 0-1	△ 2-2		△ 1-1	△ 2-2			△ 0-0	● 1-3	○ 3-0	● 1-2	1	4	4	10	12	-2	7
1	大体大	● 1-3	○ 2-0	○ 3-0	○ 2-1	○ 3-0	○ 2-1			○ 2-0	○ 5-2		○ 4-1	8	1	0	24	8	16	24
9	京産大	○ 0-2	● 1-3	○ 2-1	○ 0-5	● 2-4		△ 0-0	○ 0-2			○ 3-0	△ 3-3	2	5	2	11	20	-9	8
6	大産大	○ 3-2	● 1-4	△ 1-1	△ 1-1	○ 0-5	○ 4-3	○ 3-1	● 2-5			○ 2-1		4	3	2	17	23	-6	14
12	神国大	○ 0-7	○ 0-1	○ 0-2	○ 0-7	○ 0-5	○ 0-2	○ 0-3		○ 0-3	● 1-2			0	9	0	1	32	-31	0
11	関国大	○ 0-8	○ 0-3	△ 2-2	● 1-3	● 1-3	△ 2-2	○ 2-1	● 1-4	△ 3-3				1	5	3	12	29	-17	6

2年ぶりの晴れ舞台の

第90回
関西学生陸上
競技対校選手権
男子1部 <総合>

順位	校名	得点
1位	関西学院大	215点
2位	大阪体育大	130.5点
3位	立命館大	93点
4位	関西大	81点
5位	大阪教育大	53点
6位	びわスボ大	51.5点
7位	京都産業大	51点
8位	龍谷大	44点
9位	近畿大	42点
10位	同志社大	41点
11位	天理大	30点
12位	京都教育大	26点

表彰台で笑顔の東野

苦難乗り越え

復活

1部

陸上の第90回関西学生対校選手権大会は5月9日から4日間、大阪・長居陸上競技場で行われ、男子は51・5点を挙げて総合6位に食い込んだ。初の1部昇格となった2011年以来、2年ぶりに復帰した1部の舞台でトラック、混成競技を中心に得点を重ね好成績につなげた。

伝統は後輩にしっかりと受け継がれた。400mは4年の東野誠道が47秒45で2位と健闘、5000mでは佐俣一輝(3年)が14分24秒08で3位となった。十種競技では2年の林祐太郎が6415点で3位に入った。

一方m競歩の石田は、序盤で4年の丸尾と2人でレースを作った。丸尾がペースを落としてからは龍谷大の2選手との競り合いとなったが、終盤にスパートして振り切り、そのままゴールインした。

また、東野は400m予選で自己ベストを1秒以上も更新する47秒05の好記録をマーク。冬のトレーニングの成果が出たことに「うれし以上ひびくりした」という。優勝を狙った決勝では予選よりタイムを落として2位に終わったものの、立派な成績だった。

志賀監督は「選手は協力してよく頑張ってくれた。2、3年生が活躍してくれ、来季以降にも期待が持てる」と総合6位の成績を評価した。

10000m競歩での序盤の競り合い。石田(右から2人目)がレースを制し、丸尾(右)は4位だった。

主な決勝記録

名前(学年)	種目	記録	順位
東野 誠道(4)	400m	47秒45	2位
丸谷 祐也(4)	800m	1分52秒70	5位
佐俣 一輝(3)	5000m	14分24秒08	3位
村上 眞生(3)	110m障害	14秒27	5位
石田 研摩(3)	10000m競歩	42分0秒14	1位
丸尾 知司(4)		42分40秒19	4位
田中 拓心(3)		47分38秒15	6位
林 祐太郎(2)	1600mリレー	3分14秒49	7位
東野 誠道(4)			
古川 真希(3)			
森 省太(2)			
松本 瑞生(3)	走り高跳び	1m95	8位
馬淵 将(4)	棒高跳び	4m80	5位
加藤 諒(3)		4m60	7位
林 祐太郎(2)	10種競技	6415点	3位

アルティメット日本代表

トロントへ出発

7月22日〜28日にカナダ・トロントで開催されるU-23世界アルティメット選手権大会のウイメン部門の日本代表チーム(競技スポーツ学科トレーニンク・健康コース4年)が選出された。また、磯元隆史





京滋大学野球1部 春季リーグ戦

京滋大学野球1部の春季リーグ戦は4月1日から5月22日まで行われ、硬式野球部は4勝8敗、勝ち点1の成績で5位に終わった。

巻き返しを誓い再始動

第1週の成美大は投打ががっちりかみ合って連勝し、勝ち点を奪う好調なスタートを切ったが、優勝した京都学園大に連敗し、花園大には3回戦で5-8と打ち負け、続けて勝ち点を落とした。佛教大との対戦は2回戦に3-2と競り勝って期待を抱かせたが、3回戦では1-5の力負け。意気消沈した最終週の大谷大戦では2試合とも打ち負けて勝ち点、勝率で並ばれてしまった。大谷大との3連戦となった5月20日の5、6位を決めるプレーオフで競り合いの末に5-3で勝って、何とか最下位転落を免れた。

序盤では優勝争いにも加わったが、終わってみれば昨秋の4位を下回る不本意な成績。チャンスはつくるものの、ここ一番でタイムリーの出ない打線、守りでも大事なところでミスが出て、力投を続けるエースの高橋道岳(3年)を盛り立てることができなかった。本郷監督は「流れに乗るといけるが、壁にぶち当たったときに取り戻す力が足りない。まだ地力不足ということですね」と総括した。4年中心のチームで2、3年ながらレギュラーポジションを獲得した選手が実力を百パーセント発揮するまでには至らず、チームの底上げができなかった。「やはり基礎能力が劣っている。質より量で鍛え直す。夏はハードに練習します」と言い切る同監督。「ことしの1年生は面白い。世代交代を目指して、下から突き上げてもらいたい」と新戦力にも期待していた。真価を問われる秋季シーズンでの巻き返しに期待したいものだ。

春季リーグ戦ベストナインの二塁手に小林隼大(4年)が選出され、「チームとしては悔しい思いをしたので、秋には全員で借りを返したい」と話した。



力投が報われなかったエース高橋



ベストナインの小林二塁手

平成25年度 春季リーグ戦1部勝敗表

順位		京都学園大	佛教大	成美大	花園大	びわろ大	大谷大	勝ち点	勝率
1	京都学園大		○●○	○○	○○	○○	○○	5	0.909
2	佛教大	●○○		○○	○○	○●○	○●○	4	0.692
3	成美大	●●	●●		○○	●●	○○	2	0.400
4	花園大	●●	●●	●●		○●○	●○○	2	0.333
5	びわろ大	●●	○●●	○○	●○○		●●	1	0.333
6	大谷大	●●	○●●	●●	○●●	○○		1	0.333



壮行会で激励を受ける森



水球日本代表に森翼を選出

第27回ユニバーシアード競技大会(7月6日〜7月17日・カザニ(ロシア)の水球日本代表女子選手に、森翼(競技スポーツ学科コーチングコース4年)が選出された。

これまでU-18日本代表など、キャリアを積んできた森に朗報が届いたのは4月中旬。昨年は惜しくもロンドン五輪予選を戦った日本代表チームに入れなかっただけに、ユニバーシアードにける気持ちは強い。「4年前のユニバには、先輩3人が出たが1勝もできなかった。今回は1勝し、できればベスト4を狙いたい。わたしはオフエンス能力を買われているので、点を取りたい」と意気込みを話してくれた。

6月24日から国内で合宿に入り、同30日に出発。ユニバーシアードでの活躍が期待される。



第21回 関西学生女子柔道優勝大会

◇2回戦 (結果)

	びわこ成蹊スポーツ大	1-1	同 大
代表戦	○治田	上四方固め	中野

◇準決勝

	びわこ成蹊スポーツ大	1-1	関 大
代表戦	○治田	支え釣り込み足	城田

◇決勝

	びわこ成蹊スポーツ大	1-0	芦屋大
先鋒	中村	引き分け	櫻井
中堅	治田	引き分け	鳥谷
大将	○中根	腕ひしぎ十字固め	服部

柔道の第21回関西学生女子優勝大会は5月26日、兵庫県尼崎市のベイコム体育館で争われ、3人制に出場したびわこ成蹊スポーツ大学は厳しい接戦を強いられ、順調に勝ち進み、決勝は芦屋大に1-0で勝って2年連続2回目の優勝を手にした。

大会では連覇へのプレッシャーからか選手の動きは硬く、2回戦の同大、準決勝の関大といずれも代表戦まで持ち込まれたが、昨年の関西学生体重別選手

権準優勝の治田千絵(地域スポーツコース2年)の活躍でいずれも一本勝ちを収めた。決勝の芦屋大は、昨年の準決勝と同じ選手同士との対戦となり、先鋒の中村かおり(コース

ングコース3年)、中堅の治田が引き分けとなったものの、大将戦で中根静香(学校スポーツコース4年)が腕ひしぎ十字固めで一本勝ちし、大会2連覇を達成した。

村田監督は「今日は選手たちが初めて経験する連覇というプレッシャーで、思うような柔道ができなかった。私もちつて経験したが、連覇は優勝するよりも数段難しい。期待、不安からの重圧、他大からの研究などそれらを全てはねのけて戦わなくてはならない。しかし、彼女たちはこの大きな山を乗り越えた。一人ひとりが助け合い、誰ひとり最後まで試合を諦めなかった。接戦をモノにできる粘りは日本一になるために必要不可欠な部分であり、この連覇で彼女たちの大きな成長を感じた。ただ、関西学生での優勝は通過点であり、目指すは全日本学生での優勝。彼女たちもそう思っている。気持ちも新たに精進していきたい」と話していた。

おめでとう！
女子柔道部
2年連続
優勝



びわこ成蹊スポーツ大学

〒520-0503 大津市北比良1204番地
【代表】TEL:077-596-8410 FAX:077-596-8419 E-mail:jim@bss.ac.jp



JR比良駅から線路沿いに徒歩約15分。JR京都駅よりJR比良駅まで約40分。



新入生を対象にした2013年度フレッシュマンキャンプは、4月5日から11日まで本学艇庫周辺で3泊4日の日程で行われた。これは三つの「初体験」があった。一つ目は入学生が増えたためにA、Bコースの合計18クラスでの実施となったことが挙げられる。次は昨秋に完成した、比良エリアの「野性の森」を活用して「仲間作り野外プロ

グラム」を行ったこと。最後は悪天候によりAコースが2日目で中止となり、A、Bコースの同時登山となった。武奈ヶ岳山頂には1日で新入生全員(359人)が立つことになった。大きなけがや事故もなくキャンプを終え、1年次生には忘れられない貴重な体験になった。